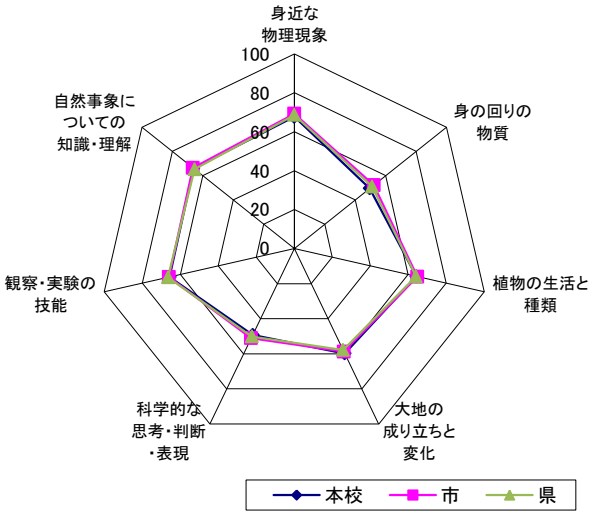


宇都宮市立陽南中学校第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	67.7	69.2	68.6
	身の回りの物質	49.6	52.2	51.1
	植物の生活と種類	64.3	64.8	64.1
	大地の成り立ちと変化	59.8	58.7	57.8
観点	科学的な思考・判断・表現	49.2	51.1	50.1
	観察・実験の技能	65.6	66.0	66.5
	自然事象についての知識・理解	66.2	66.5	65.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○光と音では県平均を0.8ポイント下回っているが、音の分野に関しては平均を上回っている。 ●力と圧力では県平均を1.2ポイント下回っている。特にばねののびとグラフの関係の問題では、平均を3.7ポイント下回っており、グラフからばねの伸び方の規則性を考える力が不十分である。	グラフを読む力をつけるために、実験の際に自分でグラフを書かせる指導をしていく必要がある。
身の回りの物質	○物質のすがたでは県平均を5.3ポイント上回っている。特に気体を発生させる方法と気体の性質を考える問題は、県平均を8.2ポイント上回ることができている。 ●状態変化では県平均を2.7ポイント下回っている。ガスバーナーの使い方の問題で3.0ポイント県平均を下回っているように、実験器具の使い方を理解する必要がある。	気体の性質に関する知識は定着してきているため、この先も継続して指導していく。また、どのような実験でそれらの気体が発生するかを、実験を通して考えさせられるとよい。 ガスバーナーは火を使用し、危険性を伴うものなので、1度教えただけにならないように、実験のたびにガスバーナーの使い方のポイントを確認するようにしていく。
植物の生活と種類	○植物のなかまでは平均を2.4ポイント上回っている。今回のテストでは、植物をどのような基準で分類するかという問題で、県平均を2.9ポイント上回っており、多くの生徒が理解できているようである。 ●生物の観察では県平均を1.9ポイント下回っている。顕微鏡を正しく使う手順に関する問題で、4.5ポイント県平均を下回っているように、実験器具の使い方を見直す必要がある。	植物の分類について、具体的で身近な植物の例を出しながら、繰り返し指導していく。 顕微鏡は、中学校の理科で初めの頃に学習するものだが、1度教えただけにならないように、実験のたびに顕微鏡の使い方のポイントを確認するようにしていく。
大地の成り立ちと変化	○地層の重なりと過去のようなすでは県平均を3.2ポイント上回っている。特に示相化石から地層が堆積した当時の環境がわかるかという問題では、県平均を5.1ポイント上回っていたので、多くの生徒が示相化石についてできているようである。 ●火山と地震では県平均を1.2ポイント上回っているが、斑状組織がどのように形成されたか推測し説明する問題で、県平均を7.7ポイント下回っていたので、岩石のでき方の理解が不十分である。	化石からわかることは色々あるので、どんなことが分かりそうか生徒に意見を出させながら、まとめていく必要がある。実際の化石などがあれば、生徒に見せて指導していくこともできる。 実物の岩石を見せるだけでなく、触った感じや見た目などをプリントやノートにメモさせるなどして、印象に残るような指導をしていく。